



「投手リーダー」 高橋道岳選手 (平成27年入部)



西川監督から贈る言葉



道岳は、セレクションに来た時は、ブルペンでは良かったものの、実戦形式では前評判とは裏腹に、浦川に死球を与えるなど散々だったのを覚えています。当時の庄司投手コーチからいい回転でボールがきているので絶対に戦力になりますと推されたのを思い出します。

道岳は、最初は制球力が定まらず苦労をしましたが、試合に出ていない時でもベンチから大声で選手たちを鼓舞し、クラブ選手権大会出場の陰の立役者となり、今では当たり前となったベンチワーク賞初の受賞者となりましたね。

夏以降に徐々に調子をあげ、びわこ杯決勝では7回参考記録ながら、ノーヒットノーランを達成し、日本選手権大会では3番手としてマウンドに上がり2年目への活躍が期待されましたが、2年目最初のOP戦の、大阪ガス戦で集中打を浴び、悩んでリズムに乗れずにいた時に、矢田コーチから「道岳は、性格は真面目、責任感が強く、やさしすぎる、また、マウンドに上がるとたまに弱気な一面が顔がのぞいてしまう」とやさしさゆえの欠点を述べ、克服するためにも「投手リーダー」を任せましようかと提案を受けました。

リーダ就任後は、大声で皆を鼓舞し投手陣をよくまとめ「投手王国」を築いてくれました。

また、違う一面ではお酒が好きで、皆とワイワイと喋るのが大好きと聞いています。

これから、第2の人生を歩みますが、「責任感とやさしさとリーダーシップ」を持って頑張ってください。